西南学院大学　国際法学習プロジェクトKARDIANOIA 主催

国際の狭間に置かれた人々に寄り添う 心と知 KARDIANOIA

《講演会》

「ウィシュマさんの生きていけた世界を私たちの手で」
「日本に辿り着いた難民の直面する問題について」

2021年3月に、日本の入管施設内でスリランカ人女性が死亡した事件がありました。彼女は体調不良を訴え続けましたが適切な治療を受けられないまま亡くなりました。この事件やその背景を知るために、ご遺族の代理人弁護士を務めている駒井知会先生をお迎えし、日本の入管問題に加え、日本において難民申請者の直面する問題・仮放免者の子どもたち・大人たちを取り巻く苦境についてもお話いただきます。

【日時】2022年12月4日（日） 13:00～14:40
【場所】西南学院大学 2号館201教室
【講師】駒井 知会 弁護士
【申込】kardianoia2022@gmail.com宛のメールに氏名・所属を記入してお送りください（11月30日(水)まで）

【講師紹介】

東京大学教養学部教養学科第三（国際関係論）卒
東京大学大学院法学政治学研究科修士課程卒（法学修士号取得）
University of Oxford, Queen Elizabeth House,
　Refugee Study Programme 修士課程卒（強制移住学修士号取得）
London School of Economics and Political Sciences, LLM 取得
マイルストーン総合法律事務所2013年1月入所
関東弁護士会連合会　外国人の人権救済委員会　2014年度委員長
　同委員会入管プロジェクトチーム及び難民プロジェクトチーム所属
東京弁護士会　外国人の権利に関する委員会　2016年度委員長
入管を変える！弁護士ネットワーク　共同代表

《絵画作文展》

仮放免の子どもたちが描く「家族の絆」

入管収容から一時的に身柄の拘束を解かれた仮放免の状態で日本で暮らす子どもたちがいます。家族で難民申請しても認定されない、在留資格を有しないという不安定な状況に置かれ、親などが強制送還されることで家族が離れ離れになるかもしれないという恐怖と闘っています。そのような状況にある子どもたちが表現した「家族の絆」に関する作品を西南学院大学で展示します。

【期間】11月28日（月）～12月4日（日）
【場所】西南学院大学 3号館1階（4日のみ2号館201教室）
【提供】入管を変える！弁護士ネットワーク

西南学院大学　国際法学習プロジェクトKARDIANOIA 主催

国際の狭間に置かれた人々に寄り添う 心と知 KARDIANOIA

《入管面談・裁判シミュレーション》

日本の入国管理施設では、非正規滞在者の収容が、必要性も示されず、司法による審査も受けられず、期限も決められずに行われてきました。その結果、健康状態を悪化させる事案や、施設内での死亡という最悪の事態も起きています。この問題を肌身で理解するために、被収容者との「面談」や収容の違法性を問う「裁判」を模擬的に体験できるシミュレーションを開発しました。この体験を通じて、被害者の気持ちを感じる「心（KARDIA）」と被害者の苦境を救う「知（DIANOIA）」を養い、入国管理制度のあるべき姿を想像／創造していきましょう。

【日時】2022年12月11日（日）14:00～16:30
【場所】西南学院大学　法科大学院棟　法廷教室
【申込】kardianoia2022@gmail.com宛のメールに氏名・所属を記入してお送りください（12月7日（水）まで）

2019年度対面実施の様子

《入管面談シミュレーション》

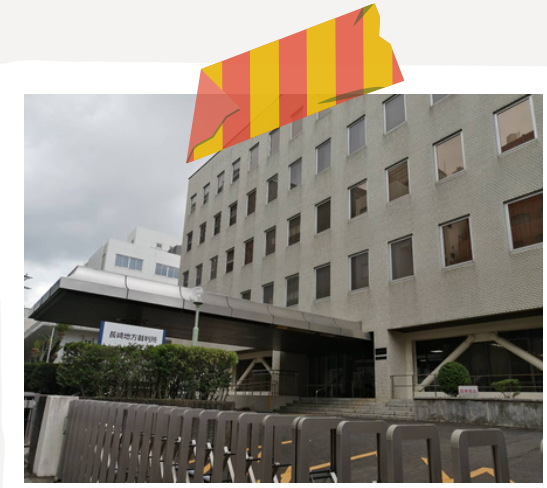
入管施設での被収容者は、自国に帰れない事情を抱えながら、退去強制に晒される恐怖と、先の見えない長期収容の絶望に苦しんでいます。このシミュレーションでは、大村入管センターで面談を実体験した学生が被収容者役を演じ、参加者が訪問者となって会話を行います。その会話を通じて、被害者の気持ちを感じる「心」のあり方を探求します。

監修：竹内正宜　行政書士（面会ボランティア）

《入管裁判シミュレーション》

大村入管センターで収容されている方が、適切な治療を受けれずに健康状態を悪化させています。その方は被収容者の「健康への権利」を求め、政府を相手に医療訴訟を提起しました。このシミュレーションでは、裁判傍聴を実体験した学生が原告弁護士の弁論を再現します。その裁判を追体験することで、被害者の苦境を救う「知」の可能性を探究していきます。

監修：稲森幸一　弁護士（原告弁護団）


長崎地方裁判所（個人撮影）